

## RSウイルス感染症

RSウイルス(Respiratory Syncytial virus)感染症は、主に冬季に流行する呼吸器感染症です。昨年11月から感染症発生動向調査患者報告の対象疾患となりましたが、昨年同時期と比較して、現在、患者報告数が増加している状況です。

RSウイルスは小児から大人まで幅広い年齢層に感染しますが、特に乳幼児への感染は、細気管支炎や肺炎の原因となりやすく注意が必要です。また、先天性心疾患を有する乳児、低出生体重児等においては重症化のリスクが大きく、時に致命的ともなります。生涯を通じて再感染しますが、一般に加齢と共に症状は軽症となり成人においてはいわゆる普通感冒をおこすのみです。有効なワクチンは現在無く、通常は対症療法が中心となります。

RSウイルスは、環境中では不安定であり、凍結融解、界面活性剤、加熱等により容易に不活化されます。しかし一方では、手指や物品の接触により、医療機関や長期療養施設内における集団発生が問題となります。

ベッドサイドで使用出来る迅速診断キットが開発されており、短時間でRSウイルスの抗原を検出することが出来ます。ウイルスを分離培養するには、上に述べたようにウイルスが不安定であるため、適切に検体を保存・輸送することが重要です。

感染症発生動向調査病原体検査の対象ではありませんが、当衛生研究所ではRSウイルス感染症あるいは細気管支炎として搬入された検体についてRSウイルスの検査を実施しています。RSウイルスの検出状況を下図に示しました。

RSウイルス検出状況

